Beyond ALSOK

CSRレポート 2014

2014年3月期

綜合警備保障株式会社

証券コード：2331

社会ニーズの変化

常に変化する社会のニーズを的確に捉えた新しいビジネスモデルの構築

ALSOKグループは、1965年の創業以来、日本の警備業におけるリーディングカンパニーとして、また日本国内の経済社会のインフラとして重要な役割を果たし、事業を拡大してきました。
警備業をめぐる環境が目まぐるしく変化するなか、ALSOKグループは、さらに進んだ新しいビジネスモデルを構築し、社会のニーズに的確に応える商品・サービスの提供を行い、お客様、社会の「安心・安全」に貢献しています。

お客様個人のニーズに応える
ホームセキュリティ

法人警備の実績により培われた豊富なノウハウと高度なシステムを駆使し、高品質なホームセキュリティサービスを提供しています。警備システムを制御するコントローラーは、ボタンを押すだけでどなたでも簡単に操作できます。そして万一の場合は、訓練を積んだガードマンが迅速に駆けつけ、大切なご家族と住まいを守り、皆様に安心な生活をご提供しています。

ご契約先設備の
トータル管理

ビル運営管理のトータルシステムを提供しています。常駐警備、機械警備など、警備業務や防災業務に加えて、清掃管理、環境衛生管理、設備管理、建築物保全管理など、より快適なビル環境を支える業務、さらに金融機関の無人ATMコーナーの管理、電話対応など運営管理サービス全般を一括管理することで、ご契約先の管理担当者の労務軽減を実現しています。

アジアを中心とした
海外事業の展開

これまで日本国内で蓄積してきた警備のノウハウをもとに、海外での日本企業の「安心･安全」をサポートするため、警備上の問題分析、警備計画の策定、現地でのパートナー警備会社の紹介、さらに警備の品質維持や向上を含めた運用管理までトータルなサービスを提供しています。

少子高齢化などの社会課題に対し、
警備業で培ってきた経営資源やノウハウを活用し、
さらに付加価値の高いサービスを提供していきます。

経営理念に基づき、社会の「安心・安全」を守る

IT社会 → 防災・事業継続計画（BCP）への対応 → 日本企業の海外進出増加 → 少子高齢化

Beyond the TIME

Beyond the

警備業の枠組みを超えた技術革新と「安心・安全」を支える多彩な人材

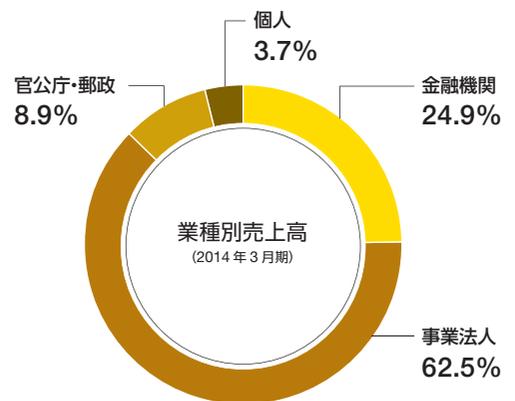
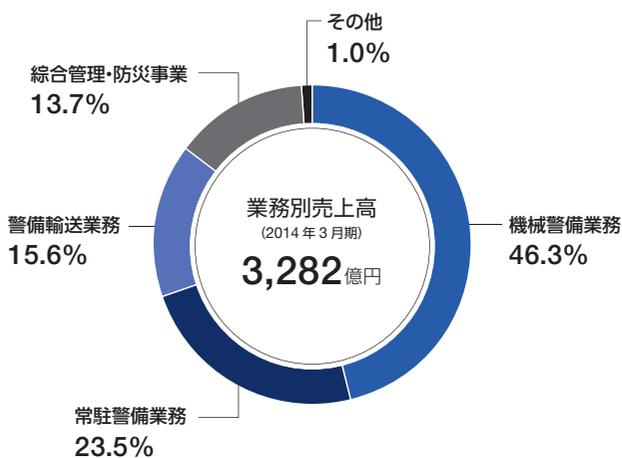
ALSOKグループは、現在、法人約44万件、個人約24万件のお客様の生命・財産・安全を守り、全国約50,000台にのぼるATMの管理運用など、経済の発展や毎日の暮らしに不可欠なインフラとして重要な役割を担っています。
社会の変化に対応したセキュリティサービスの技術革新とともに、日々の業務を支えているのは約28,000人の社員一人ひとりです。警備業という枠組みを超えた「安心・安全」を提供していくために、何事にも、常に感謝の心を忘れない「ありがとうの心」と、強く、正しく、温かい、「武士の精神」をもって、業務に取り組んでいます。

第49期第一回 総合防災訓練
ALSOK

BOUNDARIES

業務別売上高
(2014年3月期)
3,282億円
機械警備業務
46.3%
常駐警備業務
23.5%
警備輸送業務
15.6%
綜合管理・防災事業
13.7%
その他
1.0%

業種別売上高
(2014年3月期)
事業法人
62.5%
金融機関
24.9%
官公庁・郵政
8.9%
個人
3.7%

機械警備業務の法人契約数

440,028件

鍛え抜かれた質の高いガードマンと、高いテクノロジーを組み合わせ、365日・24時間、「安心・安全」をお約束。

常駐警備業務売上高

772億円

国内最大規模のシェアをほこる常駐警備業務。

ホームセキュリティ契約件数

約24万件

画像監視やスマートフォンでの警備操作などの最新のテクノロジーを盛り込んだ「HOME ALSOK Premium」を展開。

BUSINESS

綜合管理・防災事業　過去3年の伸び率

163%

セキュリティサービスとのシナジーにより大幅拡大。
※2011年に子会社化した日本ファシリオ（株）を含む

入金機オンラインシステム運用台数

約1.5万台

日常的に発生する現金管理の効率化とコスト削減、現金搬送時のリスクを軽減。

日本全国のATM運用台数

約5万台

ATM機器障害から現金の装填・回収・現金照会まで、綜合的な運用管理サービスを展開。

海外展開

10地域

アジア各国を中心とした海外へ積極的に展開。

「収益性の追求」と「社会との信頼関係」を両立した企業価値の向上

Beyond

ALSOKグループが提供するサービスは、
社会の「安心・安全」を確保することで成り立っており、
これまで警備業を継続的に発展させることができたのは、社会の人々からの信頼があったからこそです。
ALSOKグループは、高い収益性を追求するとともに、事業を超えたさまざまな活動を通じて、
社会との強い信頼関係を構築し、企業価値のさらなる向上に努めていきます。

日本全国の待機所数

2,400カ所

全国各地に配置された待機所からガードマンがお客様のもとへスピーディーに駆けつけ、「安心・安全」をご提供。

ALSOKあんしん教室® 延べ参加人数

100万人以上

取り組み開始から10年、小学校向け防犯出前授業「ALSOKあんしん教室」に延べ100万人を超える児童が参加。

SOCIETY

スポーツ選手の支援によるオリンピック出場者

延べ22名

レスリングや柔道などのスポーツを支援。所属選手から世界トップレベルのアスリートを輩出。
※退職者を含む

各種研修の年間実施回数

576回／年

社員力の向上と人材育成を図るため、年間をとおして専門的なさまざまな研修を実施。

育児・介護休職からの復職率

91%

仕事と家庭の両立を支援する制度を整備し、ワークライフバランスやダイバーシティを推進。

ALSOKありがとう運動福祉車両寄贈数

延べ89台

役員や社員などの会費と寄託金で運営される「ありがとう運動」から福祉車両を毎年寄贈。

セキュリティ・コンサルタント有資格者に占める当社社員の割合

1／4人

社会公共に係る防犯・防災等の対策、実行を支援するスペシャリスト。

the BUSINESS

変化する社会のニーズを的確に捉え、警備業の枠組みを超えたサービスの提供により、社会課題の解決に貢献していきます

代表取締役会長
最高経営責任者（CEO）
村井 温

代表取締役社長
最高執行責任者（COO）
青山幸恭

警備業のリーディングカンパニーとして

当社は、1965年の創業以来、日本の「安心・安全」を支える警備業として事業を拡大してきました。創業から49年を迎えた現在、ALSOKグループの売上は、3,200億円を超え、日本の警備業におけるリーディングカンパニーとして、毎日の暮らしや経済の発展に欠かすことのできないインフラとして重要な役割を担っています。

機械警備業務では、法人約44万件、個人約24万件のお客様の生命・財産・安全を守り、警備輸送業務では、全国50,000台にのぼるATMの管理・運用を行っています。さらに常駐警備業務では、東京スカイツリータウン®などに代表される大型商業施設の安全を数多く支えるなど、ALSOKグループのセキュリティサービスは、広く社会に浸透しています。

また、ALSOKグループでは、日本企業の海外進出に伴うセキュリティサポートを提供しておりますが、今後は現地の「安心・安全」を守るべく海外展開にいっそう注力し、ナショナルブランドからグローバルブランドへの飛躍を目指します。

警備業として取り組むべきCSRの重点テーマ

警備業のリーディングカンパニーとして社会から高い信頼をいただき続けるためには、高いレベルのCSRを実践していくことが非常に重要と考えています。

当社はこれまで社会的責任の国際規格であるISO26000が示す7つの中核主題に対応したCSR活動を進めてきました。2013年度からはこれまでの取り組みを継続しながらも、CSRをより本業を通じた形で実践するため、❶社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供、❷人材育成と働きやすい職場づくり、❸積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献、❹信頼される警備サービス、という4つをCSRの重要テーマと捉え、活動の強化を図っています。

また、地球環境の保全については、全人類・全業界共通で取り組むべきテーマとして認識しており、警備車両のハイブリッド化の推進やLPガス仕様車の導入に向けた施行など、当社だからこそできる取り組みを継続的に推進しています。

社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供

当社が考えるCSRは、社会やお客様が抱えるさまざまな課題を本業を通じて解決することにあります。わが国の治安を見ると、依然として年間11万件の侵入窃盗が発生し、そのうち半数以上が住宅被害です。また、少子高齢化や核家族化が進み、家族の目が届かないところで起きる事件や事故、病気などへの対応が遅れ、思わぬ結果を招くケースも少なくありません。そのため、警備事業においても生活全般の「安心・安全」を追求する意識の高まりが

顕著となり、各家庭や個人のライフスタイルに合わせたサービスの提供が求められるようになりました。

このような状況を踏まえて、2012年に新ブランド「HOME ALSOK」を立ち上げ、個人のお客様一人ひとりの課題を解決するために、あらゆるライフスタイルに合わせた「安心・安全」をトータルでご提案するサービスを展開しています。

また、高齢化社会という社会的課題の解決に向け、2012年より介護事業への参入を開始し、2014年3月末現在、首都圏6カ所で事業展開を行っています。今後も警備業で培ったノウハウを活かしながら、社会やお客様の課題を解決する多面的なサービスを展開しています。

■ 人材育成と働きやすい職場づくり

ALSOKグループの事業は、社員一人ひとりの「安心・安全」を守るという強い使命感により支えられています。そのため信頼に値する人材の育成と、社員が働きやすく、かつ能力を充分に発揮できる職場づくりに取り組んでいます。

警備業は、お客様の生命、財産の安全確保に直接関わるため、機械警備・常駐警備・警備輸送など、部門ごとの専門的な警備スキルや、最先端のセキュリティシステムの運用に必要な知識を身につける研修のほか、「倫理教育」や「自己啓発講座」など、社員に多くの学びの機会を提供しています。

また、ワークライフバランスやダイバーシティの推進にも積極的に取り組み、社員が安心して働ける制度の整備や、キャリア開発の支援など、男女や年齢などの区別なくチャレンジできる機会を提供しています。その結果、警備の現場を含め、あらゆる分野において多くの女性社員が活躍するなど、一定の成果があらわれ始めています。

■ 積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献

当社が担う警備業は、地域社会の「安心・安全」を確保することであり、企業市民として、それぞれの地域が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に進めていく必要があると考えています。

子どもたちの安全を守ることを目的に、当社は2004年から全国の小学校で「ALSOKあんしん教室®」を実施しており、今年で開始から10年という節目の年を迎えました。活動開始から延べ7,438校で開催、100万人以上の子どもたちが参加しました。子どもたちに防犯を意識するきっかけを与え、また、教職員や保護者には防犯教育のノウハウを提供することで、地域の「安心・安全」に貢献しています。「安心・安全」を守ることを本業としている当社だからこそできる重要な社会貢献活動として、今後もさらなる進化を図りながら継続していきたいと考えています。

■ 信頼される警備サービス

ALSOKグループが提供するサービスは、社会からの高い信頼によって成り立っており、関係法令の順守はもちろんのこと、高い倫理観や規律性が要求されます。そのため、当社ではコンプライアンスを経営の最重要課題のひとつと捉え、グループ一体でさまざまな取り組みを進めています。毎年コンプライアンス委員会が中心となりグループで取り組むべきコンプライアンスのテーマを協議し、各部署と連携することでグループ全体への意識浸透に努めています。

■ 創業50周年に向けて

当社は、2015年に創業50周年を迎えます。これは、多くの方々の支えがあったからこそということは言うまでもありません。これからも当社は、ステークホルダーの皆様への「ありがとうの心」と、警備会社としての正義感である「武士の精神」をもって事業を行い、警備業として培ったノウハウを活かし、新たな事業に挑戦することでさらに成長していきたいと考えています。皆様のご支援、ご指導を引き続き宜しくお願いいたします。

ALSOK CSR

《警備業として取り組むべき4つの重要テーマ》

当社が、警備業のリーディングカンパニーとして社会とともに発展するためには、常に高いレベルのCSRを実践してステークホルダーの皆様からの信頼をいただき続けることが重要です。

当社はこれまで、経営理念をベースに、社会的責任の国際規格であるISO26000が示す7つの中核主題に対応したCSR活動を進めてきました。2013年度からはこれまでの取り組みを継続しながらも、CSRをより本業を通じた形で実践するため、❶社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供、❷人材育成と働きやすい職場づくり、❸積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献、❹信頼される警備サービスという4つをCSRの重要テーマと捉え、活動の強化を図っています。

また、地球環境の保全については、全人類・全業界共通に取り組むべきテーマとして認識しており、警備車両のハイブリッド化の推進やLPガス仕様車の導入に向けた施行など、当社だからこそできる取り組みを継続的に推進しています。

Materiality 1: Consumer

社会的課題の解決に貢献する
商品・サービスの提供

P.11-14

Materiality 2: Labor Practice

人材育成と働きやすい職場づくり

P.15-18

Materiality 3: Community

積極的なコミュニケーションによる
地域社会への貢献

P.19-22

Materiality 4: Operating Practice

信頼される警備サービス

P.23-26

ISO26000・中核主題

●組織統治　●人権・労働慣行　●環境　●公正な事業慣行
●消費者課題　●コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

経営理念

我が社は、「ありがとうの心」[1]と「武士の精神」[2]をもって社業を推進し、人類生存の基本である社会の安全の確保に貢献するとともに、常にベストワンカンパニーを目指して最善を尽くします。

1.人間はこの社会でお互いに生かし生かされているものであり、自分を取り巻くすべてのものに対し、謙虚にありがたいと思う感謝のこころ。
2.常に「秩序正しく、計画的に堂々と勝ち抜き、発展を図る」という精神。

© Natsuki YASUDA/
studio AFTERMODE

社会的課題の解決

社会の「安心・安全」を守る当社ならではのCSR活動を各事業で実践し、警備業で培ったノウハウと強みを活かしながら、新たな価値を創造し、社会やお客様の課題を解決する多面的なサービスを展開していきます。

常駐警備業務

東京スカイツリータウン®

警備輸送業務

機械警備業務

綜合管理・防災事業

その他

Consumer

Materiality

Materiality

Consumer

社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供

当社が考えるCSRは、社会やお客様が抱えるさまざまな課題を
本業を通じて解決することにあります。
少子高齢化や核家族化など、常に変化する社会の動きを的確に捉えながら、
警備業で培ったノウハウを活かし、社会やお客様の課題解決に貢献する
多面的なサービスを提供しています。

社会的課題の解決に貢献する「HOME ALSOK」

社会の課題を的確に捉え、本業によって課題を解決していくという考え方がCSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）です。ALSOKグループはこのCSVの実践として、2012年に「HOME ALSOK」ブランドを立ち上げました。「HOME ALSOK」は、お客様のライフスタイルの多様化に合わせて、それぞれのお客様が抱える課題解決に向けたサービスです。

家庭への「安心・安全」をトータルで提案

「HOME ALSOK」のコンセプトは、「少子高齢化」「地方の過疎化」など、お客様の幅広いニーズにお応えしていこうというものです。お客様一人ひとりの課題を解決することがALSOKの使命ですが、誰もが同じ課題を持っているわけではなく、実際には千差万別です。例えば、「夫婦と子どもの世帯」「ご高齢者の一人暮らし」「二世帯住宅」など、お客様のライフスタイルによって、求められるサービスは大きく異なります。

こうしたお客様の異なる課題に応えるために、「HOME ALSOK」では、ALSOKが有する「システム」「サービス」「ALSOKクオリティ」「協業・提携」を相互に融合し、連携させていくことで、あらゆる「地域」「年代・年齢」「健康状態」「家族構成」に合わせた多様な商品・サービスを提供しています。

ライフスタイルの多様化に合わせたさまざまな商品・サービス

個人向けブランドとして立ち上げた「HOME ALSOK」は、ライフスタイルのさまざまなシーンに対応した商品・サービスを提供しています。主なものとしては、従来のホームセキュリティをお客様の声により進化させ、Web警備遠隔操作や画像確認サービスを搭載し、スマートフォンなどとの連携を実現した「HOME ALSOK Premium」、さらに、日常的に生活していない住宅の敷地内の見守りに対応した「HOME ALSOK るすたくサービス」や一人暮らしの女性をストーカー行為などから守る「HOME ALSOK レディースサポート®」等、さまざまなサービスを展開しています。また、2013年には、高齢者の「安心・安全」を守るために「HOME ALSOK みまもりサポート®」の販売を開始しました。

HOME ALSOK るすたくサービス

空き家は、その管理が不充分なものも多く、放火や侵入など、犯罪の温床になることが懸念され、社会問題化しています。別荘やセカンドハウスなどの日常的に生活していない住宅向けに、見回りによる現地の状況確認や、対象施設内の郵便受けに入った投函物の回収・整頓を行うサービスです。

HOME ALSOK レディースサポート

一人暮らしの女性をストーカー行為などから守るサービスです。家族と住んでいたときには感じなかった、犯罪などに対する不安を解消することで、一人暮らしの女性だけでなく、そのご家族にも、「安心・安全」な生活を送っていただくためのサービスです。

■ 高齢化社会に対応した新たなサービスの拡充

少子高齢化という社会的課題に対し、新会社ALSOKケア（株）を2012年10月に設立し、訪問介護事業を展開しています。警備業で培った経営資源やノウハウを高齢者向け事業に活用し、従来の介護に、より高い付加価値を加えた生活支援サービスとして、お客様の課題に多面的にお応えしています。

マテリアリティ報告 ❶

Consumer

変化するお客様ニーズへの対応

HOME ALSOK みまもりサポート®

日本の総人口に占める高齢者の割合は、25.1%（2013年10月現在）となり、ますます高齢化は進んでいくことが予想されています。ALSOKグループでは、この日本社会が直面している課題に対し、「安心・安全」と利便性を追求した新サービス「HOME ALSOK みまもりサポート」の提供を通じて課題解決に貢献しています。

高齢者の生活をトータルでお守りする「HOME ALSOK みまもりサポート」

社会の課題を的確に捉え、商品やサービスによってその課題を解決していくという考え方がCSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）です。ALSOKグループがこのCSVの実践として、2012年に立ち上げたのが個人向けブランド「HOME ALSOK」です。「HOME ALSOK」は、ライフスタイルのさまざまなシーンに対応した商品・サービスを提供し、個人のお客様が抱える課題解決に貢献しています。

2013年9月に販売を開始した「HOME ALSOK みまもりサポート」は、今後も急速に進むことが予想される高齢化という課題に対応したサービスです。「HOME ALSOK みまもりサポート」の大きな特長は、緊急時、ご自宅に設置したコントローラーの「緊急ボタン」を押すだけで、365日・24時間、当社のガードマンが駆けつけ、状況を確認し、ご家族への連絡、必要に応じて119番通報や状態によっては心肺蘇生などさまざまな対応を行うことです。また、体調が悪いときには、機械の「相談ボタン」を押せば、24時間いつでもALSOKヘルスケアセンターにつながり、健康相談や医療機関・介護施設の情報提供など、さまざまな相談を行うことが可能です。さらに、あらかじめ持病やかかりつけの病院などの情報をご登録いただくことで、救急車による搬送が必要になった場合、駆けつけた救急隊員への引き継ぎがスムーズになるなど、ALSOKグループのサービス運用力と現場対応力を組み合わせ、トータルで高齢者の生活をお守りするサービスとなっています。

「安心・安全」に加え、「利便性・わかりやすさ」を追求

開発にあたって最も注力したのは、「安心・安全」はもちろんのこと、高齢者にとっての「利便性・わかりやすさ」でした。設置するコントローラーも、従来品と比較してシンプルで使いやすいものに大幅改良し、またデザインも親しみやすいものに刷新しました。高齢者の方々には、ホームセキュリティという概念をなかなか理解してもらえず、機器の設置が必要なことや、コントローラーの操作が難しいという理由から、契約に至らないケースも多くありました。そのような課題に対し、「HOME ALSOK みまもりサポート」では、設置する機器のみならず、契約書やパンフレット、取扱説明書に至るすべてのツールを、できるだけわかりやすく、シンプルで、かつ親しみやすいデザインにして、高齢者の方々が利用しやすいように改良を重ねています。

今後も、社会の変化やお客様の声に対応したサービスのいっそうの改善により、高齢者やご家族の「安心・安全」に加え「高い利便性」を提供していきたいと考えています。

■ この二人にお話を聞きました

「HOME ALSOK みまもりサポート」の企画・開発担当者と販売担当者の二人に、それぞれ違う立場から「HOME ALSOK みまもりサポート」の社会的価値、今後の展望などを聞きしました。

ご高齢の方に優しい、シンプルで使いやすいデザインに

安心　コントローラーは、安心感をUPさせるさまざまな追加サービスにも対応しています。

身近　据え置き設置が可能なため、座りながらなど、身近な場所で使えます。

簡単　大きな文字やボタン、聞き取りやすい音声や警告音など、ご高齢者に優しく操作しやすいデザインです。

使いやすく、シンプルにデザインされた「HOME ALSOK みまもりサポート」用のコントローラー
（寸法：W180mm × H170mm × D39mm）

■ 本部・販売が一体となり、さらなる「安心・安全」を

ALSOK 本社
HOME ALSOK営業部
企画課 課長代理
島村 大樹

「HOME ALSOK みまもりサポート」販売にあたっては、商品の企画･開発や販売促進を行う本部と、実際に販売を行う現場との連携を重視しています。本部は、商品やサービスを開発したらそれで終わりということではありません。実際にお客様にお会いして販売を行う現場から挙がってくるさまざまな声を反映させ、お客様にとってより価値のあるものにするため、常に改善を重ねなければなりません。

ALSOKグループには、現場から積極的に意見・課題が挙がってくる風土があります。今後もこの風土を大切にし、本部・販売の双方向コミュニケーションにより、社会的価値の高いこのサービスを広く普及させ、高齢化という課題解決に貢献していきたいと考えています。

■ サービスのいっそうの発展で、社会に貢献したい

お客様からいただく声で一番多いのは、「HOME ALSOK みまもりサポート」のコントローラーがあるだけで、毎日安心して過ごせるということです。ボタンを押すだけで、ガードマンが来てくれる、またいつでも相談ができる。高齢者だけでなく離れて暮らすそのご家族からも安心して使えるというご意見をいただいています。一方、現場で販売を行っていると、さまざまな課題も見えてきます。近年増え続けている高齢者向けの賃貸住宅などにおいて、高齢者向け機能が追い付いていないということもよく耳にします。今後は、このような課題に対しても「HOME ALSOK みまもりサポート」をひとつのツールとして発展させて、社会に貢献できればと思っています。

ALSOK 船橋支社
HOME ALSOK
アドバイザー
板東 沙季

Labor Practice

Materiality

Materiality

Labor Practice

人材育成と
働きやすい職場づくり

ALSOKグループの事業は、社員一人ひとりの「安心・安全」を守るという
強い使命感によって支えられています。
部門ごとに必要な専門的スキルの習得や倫理教育、自己啓発講座など
社員に多くの学びの機会を提供するほか、
ワークライフバランスやダイバーシティの推進にも積極的に取り組んでいます。

社員力向上への取り組み

ALSOKグループでは、社員一人ひとりの能力を最大限に発揮できるよう各種研修制度の充実を図るとともに、
積極的なキャリア支援や誰もが働きやすい職場環境の整備に取り組み、
企業活動の礎となる競争力・信用力・成長力を備えた人材の育成を目指しています。

当社の人材育成の特長

人材育成の基本的な精神

当社では、企業活動の最も重要な源泉は「人材」であるという基本的な考え方に基づき、「ベストワンカンパニーを目指す」という経営理念を達成するための礎となる人材育成に努めています。警備業法で定められた法定教育に加え、より高度な警備提供と企業人としてふさわしい人材の育成を目指し、新入社員研修から部門別（営業、機械警備、常駐警備、警備輸送、開発等）、階級別、管理者向けなどの多岐にわたる研修を実施しています。

いずれの研修においても、「経営理念」「経営指針」「行動規範」などの創業以来の基本的な精神の理解・浸透を図ると同時に、その精神があらゆる業務運営の場面において実践されるように、研修体系を構築しています。

また、グループ会社の新入社員教育については、当社本社内に事務局を置く綜合警備連盟教育訓練組合が実施しています。

当社が実施する新入社員研修がテレビ番組などで紹介されたことを契機に、学校や企業などから多数の研修実施の要望があり、2011年9月から、社会人としての基礎力向上を目的とした社外向け研修「ALSOK塾」を開催しています。

社員力向上プログラム

当社では、集合教育やOJT以外の能力開発機会を幅広く提供するとともに、自学自習の精神による社員の自己啓発を支援し、社員の資質を向上させることを目的とした「社員力向上プログラム」を推進しています。

具体的には、自己啓発講座の開催支援や社員の読書環境の整備支援、支社の教育責任者に対する指導、教育支援コンテンツの提供拡大などを推進しています。

2012年6月には、社員が自己啓発に取り組む契機は読書にあるという考えに基づき、本社内に「ALSOK LIBRARY（社内図書館）」を開設しました。

積極的なキャリア開発

人事交流・社内公募制度を通じた人材育成

当社は、「若手社員から幹部社員まで優秀な人材の活躍の場を広げ、グループ全体の利益に適う人材を育成し、グループ経営の強化を図る」という方針のもと、グループ各社や他企業、中央省庁などとの人事交流を積極的に進めています。また、2010年より新規事業・海外事業・M&Aなどの戦略的事業から営業や運用の第一線までの多岐にわたる事業領域において、中核となり活躍できる人材発掘・育成のための社内公募制度を行っています。今後も積極的にキャリア開発支援を推し図り、グループ全体での人材育成を促進していきます。

VOICE　官民交流制度を利用して

ALSOK 本社
経営企画部
経営戦略室
吉田 晃

当社では、社内公募として新規事業などにチャレンジできる制度があります。それに応募したことをきっかけに、2011年より厚生労働省に2年半出向しました。民間企業では経験することのできない重要な機会をいただき、国家機関で働く方の考え方や優れた調整能力、そしてそれを実行に移す気迫に満ちた仕事ぶりに触れたことで、自身の仕事の幅が広がり、人としても成長することができたと感じています。この2年半は私にとって唯一無二の財産です。今後は人事交流で得た貴重な経験を業務に活かし、社会の「安心・安全」に貢献するという当社の理念のもと、広い視点で事業立案を行い、業務領域の拡大などに貢献していきたいと思います。

Labor Practice

ダイバーシティの取り組み

女性社員の活躍促進

企業の持続的成長のため、多様な人材が働きやすく、能力を充分に発揮できる環境づくりを促進するダイバーシティの重要性が広がっています。ダイバーシティの一環としてALSOKグループが取り組む女性活躍の促進について、それぞれ異なる立場で働く二人の女性社員にお話を聞きました。

Q 警備業という仕事に就いたきっかけは？

千木良　お客様の身体・生命や財産を守るという仕事に興味を持ち、高校3年生のときに会社見学に参加しました。警備業は、男性の聖域という思いが少しあり不安でしたが、群馬綜合ガードシステム（株）には、女子機械警備隊というものがあるのを知り、自分にもできるのではないか、挑戦してみたいと思ったのがきっかけです。

藤　塚　私は当初、事務職として入社しました。入社する前は、私も警備業は男性が行う仕事だという認識がありましたが、実際は性別に関係なく、さまざまな部門で多くの女性が働いていることがわかりました。私も働く環境に恵まれ今に至っています。

Q 仕事をする上で大変と思うことは？

藤　塚　私は、現在2人の子どもを持つ母親として仕事をしています。仕事をする上で一番大変だと思うのは、子どもが急に発熱するなど体調を崩したときです。ただ、一緒に働く同僚や上司が、そのあたりをよく理解してくださり、助けてくれるので、今はとても助かっています。出産時は2回とも育児休職（1年7カ月と1年）を取得し、復職しました。育児休職中も、社内報をはじめ、社内の情報を共有するコミュニケーションは常にとれていたので、スムーズに仕事に戻ることができました。現在も短時間勤務制度を利用しているので、不自由と思うことはほとんどありません。まわりの皆さんの理解とサポートがあってのことですので、とても感謝しています。

千木良　性別に関係なく、常に緊張感を持って対応する、気持ちの維持、継続が一番大変だと思います。女性としてという点で言えば、長時間現場で警戒し続けることが体力的につらいかもしれません。また、私は女性だけで構成されている女子機械警備隊（18名）を率いる隊長という立場ですので、各種金融機関ATMの障害対応だけでなく、勤務割り表の作成や隊員に対する指導教育も行っています。隊全体をマネジメントしていくことの難しさを痛感していますが、日々いろいろと勉強になり、充実した毎日を送っています。

Q 仕事を行うなかで感じる女性ならではの強みは？

千木良　ATM障害対応業務は顧客対応業務です。どれほど速く到着できたとしても、お客様の気分を害しては何の意味もありません。ATM対応をお待ちのお客様は不安や怒りの気持ちを持っている方が多く、そんなときこそ女性ならではの気遣いや心配り、それと笑顔でお客様の気持ちを和ませ、今後もATMを利用していただけるように心掛けています。お客様が、男性ガードマンが来るのを想定していたのに、女性が駆けつけることで場が和むということもあります。お客様が女性の場合は特にそうかもしれません。

群馬綜合ガードシステム株式会社
機械警備部機械警備隊
女子機械警備隊長
千木良 麻衣

ALSOK 埼玉北支社
セキュリティサービス部
警備課
藤塚 緑

藤　塚　現在私は、緊急通報システムをご契約いただいたお宅に伺って、機械の設置・設定やセンサー設置、ステッカー貼りなどを主な業務としています。私の場合、お客様にご高齢の方が多いこともあり、女性が対応することで安心感を持ってもらえていると感じることが多くあります。以前お伺いしたお客様からは、警備会社の人が来ると聞いて、体の大きな男性が来ることを想像していたのに、女性が対応してくれて安心した、などのお声をいただいたこともあります。

女性として今後どのようなキャリアプランを描かれていますか？

千木良　結婚・出産も含めて、ALSOKグループの一員としてさらに経験を積んでいきたいと思います。また、指導者として後輩の育成にも力を入れて、たくましく、頼りにされる女性警備員を増やしていきたいと思っています。キャリアという点で言えば、女性機械警備隊だけではなく、機械警備隊全体をマネジメントしていけるような立場を目指し、日々スキルアップを図っていきたいと思っています。

藤　塚　これからも現場で多くの経験を積んでいきたいと思います。今は子どもとの時間がとても大切ですし、働きながら育児ができるこの環境をとてもありがたく思います。また、これから結婚・出産を迎える女性社員の方々にアドバイスできるような存在になれればとも思っています。

本日はありがとうございました。

ALSOKグループでは、多くの女性が仕事と家庭を両立させています。今後も女性が生き生きと働くことができる職場づくりに努めてまいります。

各種制度の充実で女性社員の活躍を支援

当社では、女性社員の活躍をさまざまな社内制度で支援しています。妊娠中や産前産後に利用できる制度に加え、出産や育児を理由に退職した社員の再雇用制度、さらには、介護のために利用できる各種制度の整備によって女性社員が安心して力を発揮できるようサポートしています。

このような取り組みの結果、当社は厚生労働省東京労働局の「子育てサポート企業」に認定されており、管理部門だけでなく、営業や技術部門、さらには警備の現場などさまざまな領域で女性社員が活躍しています。

女性視点を活かした商品開発

警備業は、一般的に女性の活躍が難しい業種として捉えられがちですが、ALSOKグループにおいては、さまざまな領域で女性社員が、女性ならではの視点や強みを活かし活躍しています。

例えば、当社が提供しているストーカー対策支援サービス「HOME ALSOK レディースサポート®」(本レポートP.12参照)は、女性が抱える社会的課題を解決するために、女性社員が中心となり開発し、商品化されたサービスです。

VOICE　女性の不安をきめ細かくサポート

ALSOK 本社
HOME ALSOK営業部
武内 陽子

同じ女性が抱えるストーカー問題に対して、民間企業としてできることは何か、警備会社ならではのサービスの提供とは何か、と皆で意見を出し合いました。また、商品の説明や訪問は、原則として女性社員が対応するなど、一人暮らしなどで不安を抱える女性の「安心・安全」をきめ細かくサポートしています。

Community
Community
Materiality
Community

積極的なコミュニケーションによる地域社会への貢献

ALSOKグループが提供するサービスは、地域社会の「安心・安全」を確保することで成り立っており、
これまで警備業を継続的に発展させてこられたのは、地域社会からの信頼があったからこそです。
当社の基本精神である「ありがとうの心」を形にするため、企業市民として、
それぞれの地域が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に進めています。

地域社会への貢献

ALSOKグループは、社会のなかで生かされている企業として、社会福祉や教育、
スポーツの分野などで幅広く社会に奉仕するとともに、「安心・安全」な街づくりのための防犯教室や防犯活動、
本業を通じた支援活動などにより、地域社会に積極的に参画し、
「ありがとうの心」をさまざまな形にしています。

社会福祉への貢献

「ALSOKありがとう運動」

「ALSOKありがとう運動」は、「国家および社会から日々受けている恩恵に感謝し、"生かし生かされるありがとうの心"を理念とし、国の内外を問わず社会に奉仕すること」を目的として、1967年に当社の創業者（故）村井順によって設立されました。

本運動は、目的に賛同する役員・社員などの会費と寄託金で運営されています。本運動は、現金寄付・現物寄付・災害義援金などの形で、社会福祉・災害救済支援、地雷処理支援をはじめ、高齢者・身体障害者福祉などの支援に充てられています。

2013年度　「ALSOKありがとう運動」寄付・寄贈先

現金寄付

寄付先
- 社会福祉法人 白蓮福祉会
- 特定非営利活動法人 世界の医療団（メドゥサン・デュ・モンド ジャポン）
- 特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画WFP協会
- 公益財団法人 日本盲導犬協会
- 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター
- 社会福祉法人 ウィズ町田
- 認定NPO法人 かものはしプロジェクト
- 社会福祉法人 ときわ会

災害義援金の寄付

災害
- 台風第4号、第7号（岩手県、山形県、新潟県、島根県、山口県）
- 台風第18号（福井県、滋賀県、京都府）

現物寄贈

内容
- 社会福祉施設に福祉車両（3台）
- 国民体育大会（東京都）に障害者授産施設で組み立てた紙製オペラグラス

© Natsuki YASUDA/ studio AFTERMODE

認定NPO法人 かものはしプロジェクトのカンボジア雑貨工房で働く女性たち

社会福祉法人広島光明学園へ車いす仕様福祉車両1台を寄贈

「安心・安全」な街づくり

地域社会の防犯活動

ALSOKでは、グループを挙げて、地域社会の防犯活動を行っています。各支社では、近隣地域の青色防犯パトロールを毎月継続して行うほか、待機時間を利用して、小学校の下校時間を中心に防犯パトロールを実施し、地域に密着した活動を展開しています。その他、防犯PR活動などに参加し、協力を呼びかけました。さらに、救急処置について、広く地域住民への普及啓発を行うために、地域イベントや防災訓練などにおいて、AED（自動体外式除細動器）のアドバイスなどを実施しています。

ALSOK 岡山支社 小学校のまわりをパトロールする警備車両

ALSOK 多摩支社 AEDの使用方法を披露

鹿児島綜合警備保障(株) 県警本部「1日通信指令室長」に就任し、模擬訓練を指揮（江藤 佳菜）

コミュニティへの参画　防犯活動

防犯活動内容

- 振り込め詐欺(声かけおよび実際の防止)
- 振り込め詐欺(見回りおよび啓蒙活動)
- 違法看板防止の啓発
- こども110番
- 地域防犯活動
- 駅構内における粗暴防犯キャンペーン
- 防犯パトロール(青色パト、児童防犯等)
- 防犯巡回パトロール(繁華街等)
- 防犯街頭キャンペーン参加等
- イベントでの護身術披露
- 児童声かけ、誘導、見守り
- 犯罪者逮捕に貢献
- 自転車盗難防止活動
- いのちの電話活動
- 暴力追放運動参加
- 悪徳商法の防止
- 青少年非行防止、盗難防止等
- AEDのアドバイス

マテリアリティ報告 ❸

Community

地域社会の「安心・安全」に貢献

ALSOKあんしん教室®

小学校や児童を標的とした犯罪が後を絶たず、子どもたちの安全が社会問題となっています。
ALSOKグループは、企業市民としての社会的責任を果たすため、
小学校に守りのプロを派遣する出前授業「ALSOKあんしん教室」を全国各地で行っています。

開始から10年目を迎え、社会から高い評価をいただく大規模な活動に

「ALSOKあんしん教室」は、当社の経営理念である「ありがとうの心」に基づき、「社会の安全確保に貢献する」ことを目的としたALSOKグループの社会貢献活動です。取り組みを開始したのは、今から約10年前の2004年。当時、小学校や児童を標的とした犯罪が社会問題になっており、当社ではこの問題への取り組みを警備会社の社会的使命と捉え、「ALSOKあんしん教室」を開始しました。民間の警備会社が行う取り組みとしては初の試みでした。2013年11月には参加児童数が100万人を超えるなど、教職員や保護者の方々からも高い評価をいただく大規模な活動となりました。

「ALSOKあんしん教室」の授業実施風景

防犯や救急救命をテーマにしたさまざまなプログラムを提供

「ALSOKあんしん教室」は、児童が自ら体験し、考えることで防犯に対する意識を高めてもらうことを重要視し、対象学年に応じて、それぞれ異なるプログラムを用意しています。

低学年向けには、登下校中における危険回避の心構えを学ぶ授業を、中学年向けには、留守番を開始する前の注意点や、留守番中に起こりうる不審電話への適切な対応方法を認識してもらう授業となっています。また高学年向けの授業では、街に潜む危険な場所について考え、どのようなことに気をつけて行動すればよいのか意見を出し合いながら考えていく内容となっています。さらに2012年度からは、高学年向けに、救急救命・命の大切さをテーマとして、119番通報やAEDを使用した心肺蘇生をロールプレーイングで学ぶ授業も行っています。

守りのプロがアドバイス ALSOK あんしん教室

データで見る「ALSOKあんしん教室」

活動開始から現在までに…

33,858回の授業を実施しました。

97.1%の先生方から良い授業と評価されています。

全国**47**都道府県 延べ**7,438**校で実施しました。

1,032,827名の子どもたちが授業に参加しました。

（2014年3月末現在）

■ この二人にお話を聞きました

■ 企業として教育に参加し、安全な地域社会の実現に貢献したい

ALSOK 本社
広報部 広報第一課
瀬戸 拓郎

「ALSOKあんしん教室」は、活動開始から今年で10年を迎えることができました。開始当初、警備会社である当社には授業を行うノウハウなど全くなく、数多くの苦労や不安を伴ったそうですが、子どもたちの安全を守りたいという使命感を持った全国の社員有志たちが練習を重ね、地道に活動を続けてきたことで、社会から高く評価され、毎年多数の依頼をいただくようになりました。

また、当社独自の社内マイスター制度「あんしん教室マスター認定制度」を設けて、各事業所にいる最高位「マスターⅢ」の担当者によって授業のノウハウが受け継がれていくという風土を作り、授業品質の維持・向上を図りつつ、多くの社員に参加してもらえる体制をとっています。

「ALSOKあんしん教室」は、企業として教育に参加する活動と捉えています。社会の将来を担う子どもたちへの教育を通じてより安全な地域社会の実現に貢献していく。それに警備会社として顔が見える形で参加していく持続可能な社会のための重要な取り組みと位置づけ、「ひとりでも多くの子どもたちの笑顔を守る」ことを目標に今後も取り組みを継続していきたいと考えています。

■ 全員参加型の活動として、もっと広げていきたい

入社当初に「ALSOKあんしん教室」のことを知り、何度も見学をしました。授業を受ける子どもたちの生き生きとした表情を見て、自分もやってみたいと思い、講師を始めました。

授業を行う上では大変なこともたくさんありますが、授業を受けた子どもたちから「ありがとう」や「楽しくてわかりやすかった」、「警備の仕事ってかっこいい」などの言葉をもらうときにやりがいを感じます。

私がこれまで講師を続けることができたのは、まわりの社員の方々の支えがあったからこそです。「ALSOKあんしん教室」は、教壇に立つ社員だけでなく、それを支える社員を含めた全員参加で取り組む社会貢献活動だと思っています。今後は、より多くの後輩社員たちがこの活動に参加してくれる土壌を作るのが、私の役割だと考えています。

ALSOK 城西支社
花田 友子
「ALSOKあんしん教室」
マスターⅢ 資格取得者

TOPICS　高齢者向け訪問講座「ALSOKほっとライフ講座」を開始

高齢化社会を迎え、子どもたちだけでなく、振り込め詐欺など高齢者を標的とした犯罪の横行が社会問題となっています。そのような状況に対応し、当社では2013年10月より、高齢者を狙った犯罪の傾向と対策について学んでいただく訪問講座「ALSOKほっとライフ講座」の提供を開始しました。本講座は、地域住民が集う地域包括支援センターなどに当社の講師が出向き、高齢者の方々にかるたやクイズ形式で防犯について楽しみながら学んでいただくものとなっています。また、ご自身やパートナーの健康に不安を感じている方のために、心肺蘇生法やAED、すぐに119番通報すべき症状などについて学んでいただく「救急救命体験講座」も実施しています。

ALSOK ほっとライフ講座

ALSOK 城北支社
(左：大西 元、右：志村 智美)

Operating Materiality Materiality ting Practice

信頼される警備サービス

ALSOKグループが提供するサービスは、社会からの高い信頼によって成り立っており、
関係法令の順守はもちろんのこと、高い倫理観や規律性が要求されます。
そのため当社では、コンプライアンスを経営の最重要課題のひとつと捉え、
グループ一体でさまざまな取り組みを進めています。
また、社会インフラを支える企業として不可欠な、事業継続への取り組みにも注力しています。

グループ全体で取り組むコンプライアンス

当社は、コンプライアンス担当役員を委員長とするコンプライアンス委員会を組織し、
2002年に制定したコンプライアンス規程に基づき、役員および社員に対する
コンプライアンス意識の周知徹底に努めています。当社は、「ありがとうの心」を形にしていくため、
奉仕の精神をもって社会貢献活動を積極的に行っていきます。

コンプライアンスの徹底

コンプライアンスの重視

当社は、警備業法のもとでセキュリティサービスを行っており、コンプライアンスを重視しています。コンプライアンス担当役員を委員長とするコンプライアンス委員会を組織し、2002年に制定したコンプライアンス規程に基づき、役員および社員に対するコンプライアンス意識の周知徹底に努め、定期的に業務活動などのチェックを行っています。

グループ全体のコンプライアンス推進

ALSOKグループでは、グループ全体でコンプライアンス運動を展開し、原則として同一のテーマを設定して推進しています。

年間のテーマをもとに各担当部署と連携し、コンプライアンス意識の醸成と浸透に努めています。

2013年度は、それぞれ2カ月間を強化運動期間として、「法定備付書類の整備等、警備業法遵守の徹底」「交通に関する法律や会社規則の遵守と運転マナーの向上等」「過重労働およびサービス残業の防止に向けた労務管理の徹底」「警備運用に関する法令、規程等の遵守」「営業関連の法令遵守」「適切な情報システムの取扱による情報漏えい防止の徹底」という6つのテーマで意識の醸成と浸透を図る取り組みを行い、当社のみでなく、グループ会社に対しても2カ月ごとに各テーマの実施状況と結果報告を求めています。

「ALSOK ホットライン」の設置

グループ会社への範囲拡大

「ALSOK ホットライン」は、ハラスメント・会社内不正行為の通報、相談の窓口として2004年4月に設置し、役員および社員などが会社に係る違法行為、不正行為および反倫理的行為に遭遇した際、不利益な扱いを受けることなく、内部通報が可能な体制を構築しています。

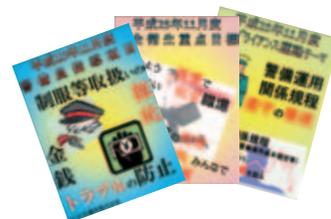
「ALSOK ホットライン」の特長は、①通報者の保護、②不利益な取り扱いの禁止、③匿名通報です。このルールが当社の通報制度の根本となっています。当社では、コンプライアンスをグループ全体で取り組むべき重要なテーマと考え、「ALSOK ホットライン」の範囲をグループ会社にも拡大しており、2014年3月末現在、当社およびグループ会社42社に拡大しています。

社員に配布している冊子

親しみやすいイラストを使用

TOPICS 啓発ポスターによる取り組みの視覚化 ～ALSOK駿河（株）～

ALSOK駿河（株）では、コンプライアンスの浸透に向けた取り組みとして、隔月で決めた取り組みテーマを題材に、社員自らが作成した啓発ポスターの掲示を行っています。

社員からは、「言葉や文字だけでは頭に残りにくい取り組むべき内容が、視覚的に訴えてくるポスターになったことで、会社や自分の業務に関係する法令が具体的にわかり、これまで以上にコンプライアンスを意識するようになった」などの声もあり、会社全体のコンプライアンス意識向上に貢献しています。

社員自らが作成した啓発ポスター

社会インフラを支える事業にとって不可欠な事業継続への取り組み

当社は、大規模災害や事故などの有事に備え、
以前から策定していた事業継続計画（BCP）をベースに2014年3月、
事業継続マネジメントシステム（BCMS）であるISO22301の認証を取得しました。

事業継続は警備会社の重要なテーマ

当社の主要事業は、人々の「安心・安全」を守る、いわば社会のインフラを支える役割を担っています。災害や事故などの予期せぬ事態に備え、有事発生時でも事業を継続させることは、企業の社会的責任として非常に重要なテーマといえます。

当社はこれまで、大規模地震などの自然災害やシステム障害、新型インフルエンザなど幅広い事態を想定し、現象ごとに特化した手順を作り込む一方、本社・地域本部・事業所ごとの実践的な訓練をきめ細かく実施してきました。

当社では、事業継続計画（BCP）は「ここまでやればよいということはなく、最終形のない取り組み」と捉えており、また、2011年に発生した東日本大震災での経験からも、いっそうのレベルアップが必要と考え、2013年7月、事業継続マネジメントシステム（BCMS）ISO22301の認証取得に向けた取り組みを開始し、2014年3月に認証を取得しました。

BCM委員会メンバー

BCMS登録証

改善の仕組みづくりによって個別の課題を全体に展開

今回の取り組みの大きな特長は、仕組みの継続的改善を行った点です。BCMSの観点から、これまでの当社のBCPを見ると、計画、実行の部分はできていましたが、改善へ向かう仕組みづくりがやや欠けていることに気付きました。認証取得に向けた取り組みでは、改善の仕組みづくりにより重点を置いて活動を行った点が大きな違いです。例えば、事業所単位で行ってきたシミュレーションや訓練において浮かび上がった課題を事務局が吸い上げ、改善提案として再び各事業所へと展開しました。これによりスムーズな事業継続と復旧への道筋が強化されました。

さらに、認証機関による審査を通じて、これまで気付かなかったことへのご指摘やお褒めの言葉をいただくことで、社員が自信を持って事業継続への取り組みを行うきっかけになるなど、各事業所の意識向上がなされたことも認証取得の大きな収穫となりました。

今後は、今回構築した仕組みを活用しながら、いっそうのレベルアップを図っていくことが重要な課題と考えています。警備輸送業務においては、輸送する交通網の課題や燃料の課題に着目し、バイクや自転車の日常的な活用を進めるなど、具体的な対策を講じてより一層、社会の期待に応えていきます。

VOICE　認証取得を振り返って

ALSOK 本社
CSR推進室 課長
難波 誠

今回の取り組みを通じて、当社事業が担う社会的責任の大きさを改めて感じました。有事においても、警備会社としての社会的責任を果たすためには、施設や情報システムの強化はもちろんですが、それぞれの活動を担う人材力が非常に重要となります。もともと当社のBCPに関する訓練は各事業所単位で個性的なものが多く、そこで浮かび上がった課題や知見は、ほかの事業所にとっても有益なものが多くありました。今回の取り組みによって、これらの課題や知見を全社で共有することができた点が大きなことだと感じています。

情報資産の保護・管理

ALSOKグループでは、情報に対する適切な保護・管理を重要な経営課題と認識し、情報セキュリティを確保するための基本方針「情報セキュリティ基本方針」を策定し、情報漏えいリスクなどに対して常に適切な措置がとれる体制を構築しています。

情報資産の保護・管理

情報セキュリティの基本方針

ALSOKグループは、警備請負契約などを締結する際に、お客様の情報を取得しているため、情報資産の保護・管理は、セキュリティサービスを遂行する上で、不可欠な要素であると認識しています。

当社では、2004年に「情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的な情報セキュリティ確保の礎とし、この基本方針を、役員を含む全社員、保有するすべての情報資産に適用しています。

また当社およびグループ各社では、「個人情報保護方針」を定め、個人情報保護に関する社内規定および管理体制を整備し、教育を通じて個人情報の適切な保護に努めています。

情報システムのセキュリティ対策

ALSOKグループでは、インターネットに接続されているすべてのサーバーなどに対して脆弱性がないことを監視しており、セキュリティ対策が施されていないサーバーなどが検出された際には、直ちにセキュリティ対策を行う体制を構築しています。

また、当社においては、ウイルス感染などのリスクの把握と社員の啓発を目的として、2012年4月から「標的型メール※」によるサイバー攻撃の社内訓練を実施しています。その他、メディアの紛失などによる情報漏えいを防止するために、リムーバブルディスクなどへのファイル保存を制限するソフトウェアを業務で使用するすべての事務用パソコンに導入しています。加えて、社員が自宅で使用している個人用パソコンにファイル共有ソフトや業務データが存在していないかを定期的に点検するなど、業務以外で使用するパソコンの安全性も確認しています。

※サイバー攻撃の一種で、攻撃や機密情報漏えいなどを目的として、特定企業や個人を対象に送りつけられるメール

情報資産の保護・管理体制の強化

ALSOKグループでは、情報資産の保護・管理の強化を目的に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の国際規格「ISO27001」の認証取得を推進し、2014年3月末現在、当社およびグループ会社15社が認証を取得しています。

また、当社はサイバー攻撃などの重大な情報セキュリティインシデントの発生に備え、今後、社内にCSIRT（Computer Security Incident Response Team）体制を整える予定です。

個人情報の管理体制強化

当社は、お客様からの信頼を基本とし、生命と財産の安全を守る警備会社として、より高いレベルでの個人情報管理を実現するため、2013年7月に「プライバシーマーク®」を取得しました。

当社は、個人情報の管理をより厳重に行うことで、お客様サービスの向上につなげていきます。

プライバシーマーク制度®とは、事業者が個人情報の取り扱いを適切に行う体制等を整備していることを、一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）が認定し、その証しとしてプライバシーマークの使用を認める制度です。

TOPICS　お客様の情報を守るセキュリティサービスへの展開

サイバー攻撃、ウイルス感染など、ネット社会ではさまざまな問題が発生しています。ALSOKグループでは、情報セキュリティを重要課題とし、管理体制の整備を行っていますが、その技術とノウハウを情報セキュリティサービスとして提供しています。パソコンの情報漏えいやネットワークの脅威を24時間監視するサービスなどに加え、2014年1月には多発するネット不正送金被害を防止するため、ホームページの改ざんをいち早く検知するソリューション「ホームページ改ざん検知サービス」をリリースしました。これにより、ホームページ閲覧者を不正送金被害から守り、ホームページ開設企業が加害者になることも防ぎます。今後も警備業で培ったノウハウを活用し時代のニーズに即したサービスを提供していきます。

地球環境への配慮

地球環境問題は、人類共通の課題であるとの認識のもと、当社では、具体的な目標を掲げ、地球環境負荷の削減に努めていきます。

エネルギー使用量および環境負荷低減への取り組み

全社を挙げて使用エネルギーを削減

2010年4月の改正省エネ法の施行により、当社は、電気やガス、灯油などの燃料使用量を原油換算（単位：キロリットル）した総量が一定量を超過する「特定事業者」の指定を受けました。それにより当社は、2009年度のエネルギー使用量を基準に、年平均1%以上の削減が求められています。

当社は、全国に多くの事業所（施設）と業務用車両を保有していることから、2009年度より環境中長期計画を設け、電力使用量および車両運行に関する燃料使用量の削減に、全社を挙げて取り組んでいます。

また、当社では、お客様の利便性を最優先に考え、全国にある銀行のATM1台ごとの利用状況を分析し、最適な店舗巡回ルートの設定や効率的な現金の補充と回収を行っていますが、これにより不要不急な車両による訪問が抑制され、燃料使用量およびCO_2の削減にも寄与しています。

2013年度も、社員それぞれに定着した節電意識に加え、機械警備業務における施設待機への変更、低燃費車、バイクなどの積極的導入、さらには営業員の折衝先訪問ルートの効率化や技術員の夜間配置人数の削減による車両走行距離の短縮に取り組みました。

その結果、事業所などの増加や記録的な猛暑にもかかわらず、電力使用量は、目標設定時の2010年度比で、7.7%の削減を達成しました。

しかし、車両運行の燃料使用量は、事業拡大に伴い警備輸送業務の活動範囲が広がり、走行距離が伸びたことから、ハイブリッド車や三輪バイク、電動アシスト自転車の導入推進にもかかわらず、前年度比1%増の963万キロリットルとなり、若干の増加となりました。ただし、1リットルあたりの燃費効率は上がっており、今後は全車両環境対応車化に向け努力していきます。

警備車両などの省エネルギー化

低燃費・低公害車両の積極的な導入

ALSOKグループでは、業務上多くの車両を利用していますが、全車両環境対応車化を目標に、ハイブリッド車や電気自動車、バイクや電動アシスト自転車などの省エネ車両の導入を積極的に進めています。また、燃料使用量の削減への取り組みとして、「アイドリングストップ活動」「エコドライブの推進」も積極的に行っています。

2014年1月末現在、ハイブリッド車両383台、バイク675台、電動バイク3台、電動アシスト自転車163台、自転車402台を導入しています※1。また、LPガス※2自動車とバイクを一部の支社で導入を開始するなど、いっそうの環境負荷低減に取り組んでいます。

※1 CSR推進室調べ
※2 LPガスは、同一排気量、同一燃料供給方式のガソリンエンジンと比較して約12～15%、ディーゼルエンジンと比較しても約6% CO_2排出量が少ない、化石燃料の中でも最もクリーンなエネルギーといわれています。

ALSOK 成田支社 ハイブリッド車両

オフィスでの省エネルギー

事務用パソコンの節電対応

当社では、オフィスでの省エネルギー化への取り組みも積極的に行っています。事務用パソコンの節電対策として、使用するすべてのパソコンに対して、無操作状態が5分を超えるとモニターがOFFになる設定を実施しています。

また、2013年度は、旧型パソコン約2,150台を電力効率の高い新型パソコンに入れ替えた結果、消費電力を前年度比で9%削減することができました。

コーポレート・ガバナンス

当社は、経営理念を実践していくために、ガバナンスの仕組みや経営上のさまざまなリスクに対応できる体制を整備し、経営の公平性、透明性を確保しています。

当社のコーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社は「社会公共への貢献」を経営指針のひとつに掲げ、人類生存の基本である社会の安全の確保に注力するとともに、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであり続けるために、経営の執行と監督の分離、迅速な意思決定、企業倫理の確立、経営の透明性の確保等によるコーポレート・ガバナンスの充実に努めています。今後とも当社では、ガバナンスが有効に機能するための組織体制の構築を目指していきます。

実効的なコーポレート・ガバナンスの体制

当社は、監査役制度を採用し、監査役による実効的かつ充実した監査が行われ、経営陣に対するガバナンスが有効に機能していると考えています。取締役は8名（うち社外取締役2名）、監査役は4名（うち社外監査役3名）となっています。

取締役会は原則月1回開催し、経営上の重要事項に対する意思決定および業務執行の監督を行っています。代表取締役会長を議長とする経営会議を原則として月2回開催し、取締役会付議事項の決定、取締役会の決定に基づく業務執行方針の協議を行っています。

監査役会は原則月1回開催しています。監査役1名は、経営会議に出席し、経営執行状況の適切な監視を行っています。

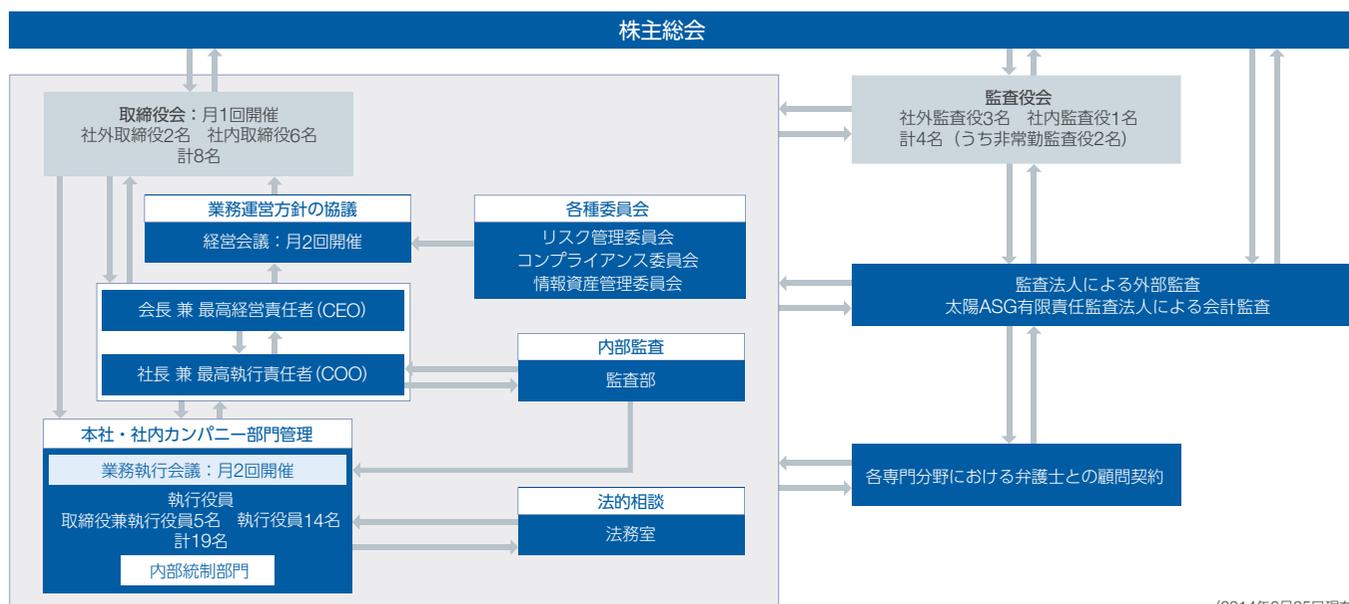
業務執行体制としては2002年より執行役員制度、2010年より社内カンパニー制を導入し、2011年4月1日には、最高経営責任者（CEO）および最高執行責任者（COO）を任命し、経営と業務執行の役割分担の明確化、経営意思決定の迅速化などに努めています。

社外の独立役員の活動状況

当社の社外役員5名は、東京証券取引所が定める独立役員の要件を満たしています。社外取締役は、社外監査役と連携をとり、当社の取締役会に出席し、独立した立場から監督を行っています。社外監査役は、監査部および監査法人と定期的に情報交換を行うことで、内部統制部門の業務適法性の評価を実施しています。

内部統制システムの整備

業務の適正を確保

当社は、会社法・金融商品取引法などに基づき、取締役の職務の執行が法令・定款に適合することを確保するための体制および業務の適正を確保するための体制を整備しています。創業以来の基本精神である「ありがとうの心」「武士の精神」と社訓を集大成した「綜警憲章」をあらゆる活動の前提と位置づけています。また一連の内部統制の整備により、適正な財務報告および職務の執行を厳密に監視しています。

（2014年6月25日現在）

CSRマネジメント

当社にとってのCSRは、お客様をはじめ、社会から何を求められているのかを常に考え、「ありがとうの心」と「武士の精神」に基づく経営理念を実践していくことです。

当社の基本精神とCSRの考え方

■ 社会の「安心・安全」を守る

当社は、1965年7月に会社を創立して以来、「ありがとうの心」と「武士の精神」という2つの基本精神を掲げ、警備業に邁進してきました。

この2つの基本精神には、社会の「安心・安全」を守るという強い使命感が込められています。当社にとってのCSRは、お客様や社会が抱える課題を本業を通じて解決していき、この基本精神を不断に全うしていくことだと考えています。

CSR理念体系

■ 「経営理念」を軸に各活動を明確化

当社では、「経営理念」を軸に、「経営指針」「行動規範」「社内規定・社内ルール」を制定し、当社として取り組むべき活動をCSR理念体系として明確にしています。

「経営指針」は、ステークホルダーに対する取り組み指針を謳い、「行動規範」では、役員・社員の日常の事業活動のなかでの行動を定めています。さらに、課題ごとに「社内規定・社内ルール」を定め、CSR活動を各業務に落とし込んだ活動を推進しています。

CSRの推進体制の強化

■ CSR推進室を中心としたCSR活動の推進

当社では、2011年4月からCSR推進室を設置しています。同室は、当社のCSR活動の一元的な管理やステークホルダーに対する情報発信、グループ全般のCSR活動の窓口機能を担っています。

2013年度からは、ステークホルダーとの対話をより強化するため、CSRレポート（冊子）は、ALSOKグループの重要テーマに絞った内容とし、Webサイトは、企業としての説明責任を果たすため、開示情報のいっそうの充実を図りました。今後も、CSRレポートとWebサイトの企画編集をはじめ、ISO26000に沿ったCSR活動の整理を進めながら、当社のCSR推進の強化を図っていきます。

CSR浸透に向けた取り組み

■ CSRに関する社内講義を実施

当社では、CSR推進室が中心となり、社内向け季刊誌「ALSOK CSR通信」や「CSR活動の手引き」の配布など、CSRの全社浸透に向けたさまざまな取り組みを行っています。

管理職などへの昇任研修でも、CSRレポートを活用した講義を毎年実施し、2013年度は、延べ252名の社員が受講しました。この結果、当社が毎年実施している社員アンケートにおいて、CSRの理解度が年々向上していることがわかっています。今後も専門部署であるCSR推進室を中心に、グループ会社を含む全社員を対象としたCSRの啓発を推進していきます。

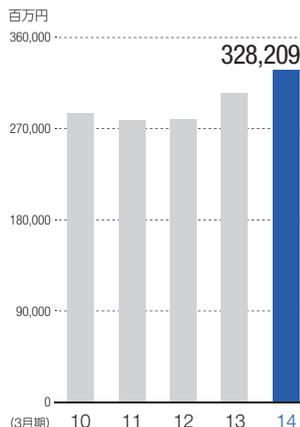
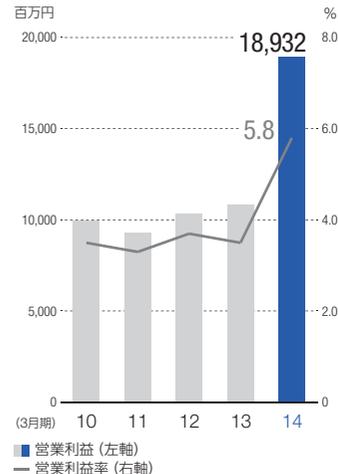
CSR推進室お問い合わせ

綜合警備保障株式会社
総務部 CSR推進室
〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6
TEL. 03-3470-1972
FAX. 03-5411-1636
E-mail alsok-csr@alsok.co.jp

ご不明な点などがございましたら、遠慮なく私たちにお問い合わせください。

本レポートで紹介できなかったCSR活動の詳細は、
当社CSR Webサイトをご覧ください。
http://www.alsok.co.jp/company/society

会社概要 (2014年4月1日現在)

社名	綜合警備保障株式会社
本社所在地	〒107-8511　東京都港区元赤坂1-6-6
設立年月日	1965年7月16日
資本金	18,675,011,600円
売上高	328,209 (百万円) (2014年3月期)
決算期	3月31日
従業員数	28,091名 (連結)　12,422名 (単体)
事業拠点	本社・10地域本部・65支社、 40支店、232営業所

経営理念

我が社は、「ありがとうの心」[1]と「武士の精神」[2]をもって社業を推進し、人類生存の基本である社会の安全の確保に貢献するとともに、常にベストワンカンパニーを目指して最善を尽くします。

1　人間はこの社会でお互いに生かし生かされているものであり、自分を取り巻くすべてのものに対し、謙虚にありがたいと思う感謝のこころ。
2　常に「秩序正しく、計画的に堂々と勝ち抜き、発展を図る」という精神。

経営指針

1　経営の基本精神

何事にも、常に感謝の心を忘れない「ありがとうの心」と、強く、正しく、温かい、「武士の精神」をもって取り組むとともに、企業人としてふさわしい人材の育成に努める。

2　経営の優先順位

立派な警備を提供することを最優先とし、これにより適正な利益を獲得して株主の期待にこたえるとともに、社員の福利の向上を図る。

3　経営の基本戦略

警備業に専念することを基本とするが、警備業で培ったノウハウ等を活用できる範囲内で、時代のニーズに即した多様なサービスを提供する。

4　社会公共への貢献

奉仕の精神をもって、安全に関する公の施策に協力するほか、社会に貢献する活動を積極的に行う。

「CSRレポート2014」について

当社はこれまで、経営理念をベースに、社会的責任の国際規格であるISO26000が示す7つの中核主題に対応したCSR活動を進めてきました。2013年度からは、これまでの取り組みを踏襲しながらも、CSRをより本業を通じた形で実践するため、警備会社として取り組むべき4つの重要テーマを設定し、活動を強化してきました。

今回のCSRレポートでは、当社が重要と考えるこの4つのテーマに絞った活動報告を行っています。なお、ISO26000の中核主題に沿ったそれぞれの活動や各支社、各グループ会社での取り組みについては、当社CSR Webサイトで引き続き詳しくご紹介していく予定です。

報告期間: 2014年3月期(2013年4月1日～2014年3月31日)を中心に報告していますが、一部上記の期間以外の活動内容を含んでいます。

報告範囲: 当社および連結子会社59社、持分法適用会社9社を対象としていますが、活動分野ごとに報告対象範囲が異なる場合には、報告範囲を掲載するようにしています。

発行日: 2014年6月

綜合警備保障株式会社

〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6
URL http://www.alsok.co.jp/

社会的責任投資の代表指数銘柄に7年連続で選定

当社は、世界的なSRI（社会的責任投資）インデックスの「FTSE4Good Global Index」の組み入れ銘柄企業に2007年から継続して選定されています。これは、当社のCSR活動が評価されたものと考えています。

FTSE4Good

- 東京スカイツリータウンは、東武鉄道株式会社および東武タワースカイツリー株式会社の登録商標です。
- プライバシーマークおよびプライバシーマーク制度は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会の登録商標です。
- ALSOK、HOME ALSOK、あんしん教室、HOME ALSOK レディースサポート、HOME ALSOK みまもりサポート、およびほっとライフは、綜合警備保障株式会社の登録商標です。

Printed in Japan